

日本史・世界史の関連と教科構造

——古代史学習における比較研究——

都 築 亨

<要 約>

高校の歴史では、日本史と世界史を一応別の科目として学習させているが、それを統一した視点で学習させられないものか。もしできるとしても近代史以降は比較的問題が少ないと思われる反面、多分に問題をもつ古代史については、日本史と世界史との関連、構成をどのようにしたらよいかということはむづかしい問題である。これについて一つのいとぐちを提出したいと考えた。

1. はじめに

歴史教育を近代化（ないしは現代化）する一つのポイントに、日本史の場合はその内容をより世界的視座の中に、位置づけること、そして世界史の場合には、その内容を自国の立場、したがって日本という立脚点に立って（西洋史と中国史、インド・イスラム史の組合せでなく）一つの基調をあたえることができるように思う。にもかかわらず、歴史教育の現場においては、日本史、世界史という二つの科目に分けられ（その分け方は極めて偶然的、便宜的なものであったとしか私には思えないが、20年間も高校の科目として存続したことが、倫社や政経とちがって、劃然とした分け方であるかのように一般には考えられてきている）その境域はますます固定し、相互に関連をもたせない形で学習させられてきているように思う。

撰択であったものが両者必修になったことがその第一の契機であり、（撰択のときには他を履習しない生徒への配慮もあって、日本史には世界史的つながりをもたせるような、そして世界史には日本の分野をたどえ些少でも入れるような努力はされてきたはずであった）科目の学年指定がなされるようになったのが、その第二の契機であった。

その理由はともあれ、日本史、世界史という歴史的科目がただ分れているだけでなく、次第にセクト主義的内容分化が著るようになってきているのは困ったことだと私は思う。

とくに古代、中世史の学習場面において、世界史では実際の学習のなかで日本に関する事項は、次の学科

で履習するからということ意識的に排除されるような傾向があることを考えると、現在「世界史」と「日本史」という科目のワクが統一的歴史認識の形成について障壁となっている場合すらあるように思う。

もちろん、だからといって実質的にほとんど相互関連をもたずに独自に発展をとげてきた東洋の世界、西洋の世界、そして日本という国家の古代史、中世史についてその歴史を同時代的、包括的に眺観する必要性を私はあまりみとめないし、むしろ各地域の歴史的発展を一貫して把握することによって、東洋の世界、西洋の世界、日本のそれぞれの歴史的歩みとその条件とちがいを理解認識させることの方が重要だと思うのではあるが、古代史を日本史、世界史として、別個なものとして学習するということは、結局は日本、東洋、西洋の歴史的発展の差すら把握することができず、現実的に世界が一体化してきた19世紀以後の歴史的歩みについてもそれぞれセパレートされた国あるいは地域世界の歴史としてしか認識できないものとする危険性をもつものであると思う。

私は偶々日本史、世界史を同じ学年でもつことができたのを幸いに（本校では2年に日本史2単位、世界史2単位、3年で日本史2単位、世界史3単位の併列各4・5単位でカリキュラムを組んでいる）2年で、一方のクラスは日本史、世界史を併行し、独立して学習させ、他方のクラスについては日本世界を統一したものとして（いわゆる日本史を包括したものとしての世界史の時間として）学習させ、その二つの学習のすすめについて、その時々生徒のうけとめ方を対比してみたいと考えた。

2. 統一的「古代史」の構想

日本史、世界史を各週2時間ですすめてきたクラスの内容は極く普通一般的なものなので省略する。今一方の日本史、世界史という科目の区別をやめて週4時間での歴史をすすめてきたクラスについて、その概要を記すと次の如くである。（数字で示したのは、授業月日）

I 原始時代（先史時代）

洪積世人類4/13→旧石器時代4/15→農耕牧畜の起源4/18→新石器文化 4/19・原始遊牧民・農耕民の社会 4/20

II 古代西洋文化の発展

1 オリент文化のその展開

メソポタミア4/20 エジプト4/22 } オリエンツの統一4/27
ハツチ・フェニキア・ヘブライ文化4/26 } アッシリア→ペルシア

2 ギリシア世界の展開とその文化

ミケーネ文明4/28→ポリスの形成5/4 →スパルタの国制5/8
ペルシア戦争5/10→アテナイ民主制の全盛5/12 ギリシア文化5/13

アレクサンダー帝国ヘレニズム5/17

3 ローマの発展と地中海世界

共和政ローマ5/18→ポエニ戦争とローマ社会の変動5/22
三頭政治5/27→シーザー独裁→帝政5/29 ローマの文化5/31
キリスト教と古代末期6/3 古代帝国の動揺6/5

III 東洋文明のおこり

1 古代インド文化の形成

古代インド文明6/7 バラモン教, 仏教6/8
マウリア朝・クシャナ朝・サンスクリット文化6/11

古代における東西交通6/24

2 古代中国文明

黄河文明一殷6/12→周代封建制6/14→春秋戦国6/14→諸子百家6/15
秦の統一6/17→漢帝国の成立6/19→武帝の時代6/21

IV 東アジア世界の形成

1 日本文化の黎明

縄文時代6/26 石器時代の生活→弥生文化, 水稻耕作の発生6/28
小国家の分立→邪馬台国

古代における日本と大陸7/15

2 中国社会の分裂

黄巾の乱→三国時代6/30 南北朝 六朝文化7/2 隋の統一7/5

3 古代国家の形成と大陸文化の摂取

大和朝廷の統一9/4 朝鮮半島の動向9/6
古墳文化9/7→氏姓制度9/10→大陸文化の摂取9/11
氏姓制度の動揺と聖徳太子の政治9/16 飛鳥文化9/17

4 律令体制の成立

大化の改新9/18→壬申の乱9/19 律令制度9/22
貴族と民衆9/25 白鳳文化9/26
律令国家の繁栄10/17 奈良時代の政治経過10/9→天平文化10/11
律令制の動揺10/14→奈良時代の政情10/16 平安遷都10/18 平安初期の文化10/19

5 貴族の政治と文化

荘園の発生10/21→武士の勃興10/24 藤原氏の発展10/28→地方政治の乱れ, 武士の成長11/16
院政11/8→平氏政権11/9 国風文化11/11 貴族と仏教・末法思想11/16 平安末期の文化11/18

6 大唐帝国と律令制国家

大唐帝国の成立11/21 貞観開元の治11/25 唐の文化11/27 律令制国家群

3. 学習の形による生徒の意識の比較

生徒にとっては普通に日本史・世界史という形の授業のすすめ方をするのと、その区別をなくして2で示したカリキュラムですすめるのと、どのようなうけと

め方のちがいを生ずるか、

- (1) どちらが授業がうけやすく感ずるか。
- (2) どちらが興味をもつ傾向がつよいか。
- (3) どちらがわかりやすく感ずるか。

の諸点について簡単な調査を試みた結果は次の通りである。

(1) どちらが授業をうけやすく感ずるか。

表1 併行して学習する方に好ましい反応を示すもの

	A B男子	A B女子	C男子 (×2)	C女子 (×2)	AB計	C計	合計
1,まとまりやすい	42	23	8	0	65	<u>8</u>	73
2,わかりやすい	11	6	10	0	17	<u>10</u>	27
3,同時代の動きが わかりやすい	24	18	26	20	<u>42</u>	<u>46*</u>	88
4,勉強しやすい	39	23	16	4	62	<u>20</u>	82

まとめた歴史の学習の方に好ましい反応を示すもの

	A B男子	A B女子	C男子 (×2)	C女子 (×2)	AB計	C計	合計
1,まとまりやすい	13	6	26	22	<u>19</u>	48	67
2,わかりやすい	5	1	18	6	<u>6</u>	24	30
3,同時代の動きが わかりやすい	21	14	22	10	<u>35*</u>	<u>32</u>	67
4,勉強しやすい	8	4	30	22	<u>12</u>	52	63

(2) 日本史世界史のどちらに興味をもっているか。

表2

	A B男子	A B女子	C男子 (×2)	C女子 (×2)	AB計	C計	合計
(1) 日本史	17	13	22	20	30	42	72
(2) 世界史	37	22	34	10	59	44	103
(3) 同じ位	2	1	4	2	3	6	9

(3) 日本史世界史のどちらがわかりやすいか。

表3

	A B男子	A B女子	C男子 (×2)	C女子 (×2)	AB計	C計	合計
(1) 日本史	36	20	40	22	56	62	118
(2) 世界史	16	14	16	2	30	18	48
(3) 同じ位	2	0	22	4	2	6	8

思う。

(2) (3)の日本史, 世界史についての興味, 理解(できたと思っている場合)はどちらも大差ない。ただ世界史に興味をもちながらも「わかりにくい」科目としてみている者がどちらも多しことは共通する。

(4) 理解しやすい項目, 理解しにくい項目をあげさ

日本史・世界史を併行して別々の時間で学習しているA・B組の生徒はほぼなかば以上の者が今の形をまとまりやすく, かつ勉強し易いと答えており, C組(一緒にまとめた歴史を学習している組)

のなかば近くが, 今の形の学習をよしとしている。それぞれ他の仕方を経験していないながらも現状に満足している答えとみることができる。それに対して「同時代の動きがわかりやすい」と答えている者がC組ではA・B(併行)型に, A・B組ではC(まとめた学習)型に期待をつないでいるのは何れにしろ, 同時代の動きが現状ではつかみにくいことを訴えているものとみてよいであろう。一考すべきではあるが, 古代史にとって同時代的歴史認識をどの程度要求すべきか問題にも

せることによって, 具体的にどのような問題に理解困難を感じているか。それが日本史, 世界史を分離して学習した場合と, 統一して学習した場合と差がないかどうか, その点の調査をまとめたものが次頁の表である。

表4

	E 理解しやすい							N 理解しにくい							E-N	○Cの方が ●ABの方が 理解がよい 項目
	AB 男子	AB 女子	C男子 (×2)	C女子 (×2)	AB計	C計	E合計	AB 男子	AB 女子	C男子 (×2)	C女子 (×2)	AB計	C計	N合計		
1 人類の起源	9	8	18	8	17	•26	43	10	4	14	2	14	16	30	13	
2 農耕牧畜と新石器文化	7	7	26	6	14	•32	46	11	2	6	2	•13	8	21	25	○○
3 原始民族の社会	6	4	22	2	10	•24	34	14	5	4	2	•19	6	25	9	○○
4 縄文文化	6	4	20	6	10	•26	36	8	1	6	0	•9	6	15	21	○○
5 エジプト・メソポタミア	11	5	12	4	16	16	32	10	6	10	4	16	14	30	2	
6 オリエントの統一	8	0	12	2	8	•14	22	24	18	26	6	•42	32	74	-52	○
7 ミケーネ文明	1	2	8	2	3	•10	13	26	8	22	2	•34	24	58	-45	○○
8 ギリシアポリスの形成	15	12	20	6	27	26	53	12	6	16	6	18	22	40	9	
9 アテナイ民生制・ペルシア戦争	10	2	18	8	12	•26	38	16	16	20	12	32	32	64	-26	○
10 ギリシア文化	8	10	8	2	18	10	28	13	5	4	4	•18	8	26	2	▲
11 アレクサンダー、ヘレニズム	7	4	8	0	11	8	19	10	11	16	12	21	28	49	-30	●
12 ローマ共和政	8	7	10	4	15	14	29	10	11	14	12	21	26	47	-18 -5	
13 ローマ帝国の成立	13	7	12	6	20	18	38	14	14	20	10	28	30	58	-20	
14 キリスト教	7	10	8	8	*17	16	33	18	12	18	0	*30	18	48	-15	△
15 ローマ文化	9	9	8	4	*18	12	30	13	6	18	2	*19	20	39	-9	
16 古代インド文化	0	2	2	2	*2	4	6	29	7	20	4	*36	24	60	-54	△
17 仏教マウリア朝	1	0	4	0	*1	4	5	21	10	28	8	*31	36	67	-62	
18 クシアナ朝グプタ朝	1	0	4	0	1	4	5	26	22	38	16	48	54	102	-97	
19 殷周	3	1	4	2	4	6	10	10	4	14	6	14	20	34	-24	
20 春秋戦国	9	2	8	0	11	8	19	6	10	20	8	16	28	44	-25	●
21 秦の統一	19	5	10	2	24	12	36	4	2	4	2	6	6	12	24	▲
22 漢帝国の成立	31	21	12	4	52	16	68	5	2	12	4	7	16	23	45	●●
23 東西文化の交流	2	1	4	0	3	4	7	17	5	18	4	22	22	44	-37	
24 弥生文化	6	3	14	2	9	•16	25	3	1	4	2	4	6	10	15	△
25 日本の小国家統一	2	0	6	0	2	•6	8	9	3	12	6	12	18	30	-22	
26 大和朝廷の統一	10	2	4	4	12	8	20	7	1	8	4	8	12	20	0	●
27 古墳時代	4	3	24	6	7	•30	37	6	3	10	8	9	18	27	10	△
28 大陸文化の摂取	5	4	10	2	9	*12	21	6	6	6	2	12	*8	20	1	○
29 聖徳太子と飛鳥文化	16	10	16	12	26	28	54	11	4	4	2	•15	6	21	33	○
30 大化の改新	26	13	16	14	39	30	69	15	4	4	0	•19	4	23	46	
31 律令制度	8	6	2	2	14	4	18	13	7	8	4	•20	12	32	-14	
32 奈良時代の政治社会	6	2	6	4	8	10	18	5	3	6	4	8	10	18	0	
33 天平文化	4	3	0	6	7	6	13	11	2	10	4	13	14	27	-14	
34 平安初期の政治	3	7	8	6	10	•14	24	3	6	4	0	9	4	13	9	○

	E 理解しやすい							N 理解しにくい							E-N	○ Cの方が ● A Bの方が 理解がよい 項目
	AB 男子	AB 女子	C男子 (×2)	C女子 (×2)	A B計	C計	E合計	AB 男子	AB 女子	C男子 (×2)	C女子 (×2)	A B計	C計	N合計		
35 弘仁貞観期の文化	0	3	2	6	3	8	11	8	3	10	2	11	12	23	-12	△
36 荘園の成立	21	13	18	10	34	*28	62	14	12	0	0	*26	*0	26	36	
37 撰関政治の発展	22	11	12	14	33	*26	59	17	10	12	6	*27	*18	45	14	
38 国風文化	9	12	10	10	21	20	41	13	6	12	2	18	14	33	8	
39 武士の勃興と成長	18	10	22	10	28	*32	60	8	12	0	2	*20	2	22	38	○
40 院政	25	11	16	12	36	28	64	15	8	8	8	*23	16	39	25	
41 平氏政権の成立	18	10	12	10	28	22	50	14	13	8	4	*27	12	39	11	
42 平安末期の文化	5	4	6	2	9	8	17	10	6	6	2	16	8	24	-7	
43 三国時代	19	4	4	0	23	*4	27	10	9	26	8	19	*34	53	-26	●
44 南北朝、六朝文化	11	2	2	0	13	*2	15	11	10	30	22	21	*52	73	-58	●●
45 随	25	13	24	12	38	36	74	14	7	2	0	*21	2	23	51	△
46 唐帝国と律令制	33	11	22	16	44	38	82	14	3	4	6	*17	10	27	55	
47 唐の文化	11	14	10	12	25	22	47	14	10	6	2	*24	8	32	15	
48 唐の衰退	17	13	32	20	30	*52	82	14	11	2	2	*25	4	29	53	○

○印は、Cの方が理解度が高い項目 ●印はA Bの方が理解度が高い項目

*印は教生が指導にあたった授業

全体としてはほとんど有意の差をみとめがたいし、かなりの数の者が「理解しにくい」と答えている項目（EよりNの数が多く従ってE-Nが一であらわされる項目）はA, B, C, いずれの組も同じような反応を示している。にもかかわらずC（統一クラス）の方が理解度が高いのは原始社会からオリエントの統一の辺りまでと、日本古代史のほとんどの時代である。いわゆる世界的分野で（E-N）が一の大きい部分についてはどちらかといえばAB（分離コース）の方が理解度が高いのに、日本史的分野と世界史だけで日本をほとんど含まない原始古代についてCの方が高い数値を示すのはどのように考えたらよいだろうか。

本来構成上むづかしいと考えられる（表3参照）世界史について、その理解を容易にするために統一した形の古代史を考えたとすれば、その意図は全く裏目に出たことになる。

しかし、構成をかえたことによって生ずる理解しやすさ、理解しにくさよりも、他の要因によって（例えば*印で示したのは教生が担当した分野であるが、その範囲では他とちがった様子を示す）生ずる差の方が大きく、ある時期をまとめた時間ですませることによって、日本史についてはとくにCクラスの方が消極的にはあれよい結果をみている。（理解しにくいと答えている者が少ない）ことを考慮に入れると、統一し

た形での歴史学習を行なったことは必ずしも一であったとはいえない。

4. まとめにかえて

私がこのプランを考えたときに危惧したのは、たださえ複雑な構成をなしている世界史の中へ更に日本史的分野をくみこませることは、より一そう生徒たちの世界史認識を混乱させることになりはしないかということであった。（しかし、もしそうだとすれば、現在中学校の2年歴史的分野の構成はそれが中学生の段階でなされていることを考えると、より不都合な面をもつといってよいだろうが）その点だけについていえばその危惧はほとんど当らなかったということになる。

そして特に日本史について世界史的視点のひろさを要求される近・現代についてはそれほど異論がないにしても、古代中世については、世界史も東洋・西洋・イスラムをそれぞれ14世紀頃まで通して学習させた方がよいという立場（各地域の歴史的特質、流れをつかませるにはその方が有効である）と、時代の分節を区切って、オリエント→古代インド→黄河文明→ギリシア→ローマ→インド（マウリア朝クプタ朝）→秦漢帝国→というように（同時代の世界というつかませ方をするためにはその方が有効であるかもしれない）世界史の全体を対比しながらすすめる立場とがあって、

世界史自体の構成のうちにもっとすっきりさせなければならぬ内容・問題を持ち、したがって、その中に日本史を更に加えても又加えなくてもそれほど、事態の深刻さは感じられないという側面をもっているのである。

いってみれば、日本史自体についてはむしろ日本史として一つにまとめて鳥瞰した方が理解しやすく、世界史については現状において（日本史を除いた）すでに構成の複雑さをもつが故に、日本史を包含した世界史としても、それを除いたものとしても印象としては大差を感じないということになる。

とすれば、近・現代については、統一した世界史が現実にも存在し、「叙述されるべき歴史」も当然にその線にそわなければならない以上、それ以前（近代以前）も可能な限りにおいて統一的視座において「叙述され、構成される」ことが必要となる。

もし提案することが許されるならば、例えば1年に〈東アジア史の中における日本史〉（江戸時代までの日本史と清までの中国および周辺民族の歴史）、2年に〈ヨーロッパ・イスラムを主にした世界史〉（文明

のおこりからルネサンスの頃までのヨーロッパ史）3年に〈世界史〉（近代社会成立以後における世界史であり当然その中に日本を含む）というような構成で高校の歴史教育の体系を再編成することが必要であり、もうそろそろ、その時期に達しているとみてよいのではないだろうか。

いわゆる 「学問」 の分野において 「国史」、「西洋史」、「東洋史」 の領域が存在していることは一応みとめるにしても、考古学、古代史学、オリエント学、封建社会論、資本主義社会成立史論の形で、そのセクト自体が次第に解体する方向にあり、かつまた高校の 「世界史」 については学問的意味でのいわば 「世界史学」 をもっていない中で構成が考えられていることに無理があるとすれば、すべての既成概念を除去して、現実の 「必要性」 と 「学習者の能力」 とを軸として 「歴史教科」 の再編を考えるべきだと思う。

その場合に、小・中学校における歴史の体系も同時に考えられねばならないことは論をまたないし、現在の中学2年の 「歴史的分野」 の構成にも多分に無理があることを指摘しておきたい。